

第1問として、平成20年にふるさと納税が導入されてからおよそ8年、その影響が東京23特別区で前年度比5倍以上の約130億、目黒区では約6億円の減収という形であらわれているようです。実際に私もウェブサイトでふるさと納税と検索してみれば、各自治体のメニューがずらりと掲載され、そこから自治体別、金額別、返礼品別とさまざまなカテゴリーに分類され、そこからふるさと納税ができる仕組みも既に構築されています。また、決済もカードで利用が可能なものもあり、盛況のようです。

よく区長は、新年会の挨拶の中で、「目黒区は、観光地でも温泉地でもなく、特産品と言われるものもありませんが」というようなフレーズを入れていたかというふうに思います。確かに目黒区は有名な温泉地でもなく、観光地でもありません。特産品と呼ばれる、いわゆるお取り寄せ品のものもなかなかない状況かというふうに思います。ただ、だからといって、何も手だてを講じないものどうかというふうに思います。

では、どういうことが必要なのか、どういうことができるのか。例えば目黒区で独自に展開している、今、大鳥中学校の生徒さんには非常に好評なイングリッシュキャンプ、Eキャンプの全体的な展開事業を構築するための施策や、全国から電話の相談なども来るといった内容が充実しているが、体制がなかなか拡大できない児童発達支援センターの充実に対する施策。特別養護老人ホームになかなか入れない状況下で目黒区の独自の高齢者施設の政策を構築して、入所インセンティブを付与する施策等々、目黒区の各部署で知恵を絞れば、さまざまな提案も出てくるのではないのでしょうか。

このふるさと納税の本来の趣旨にのっとり、返礼品に頼らない目黒区の特定の施策に対し納税ができる仕組みを考える必要があると考えますが、特定施策への納税の仕組み構築の可能性についてお伺いいたします。

## 再出

納税の考え方の1問目のほうです。きのう、おとといだったと思いますが、所沢市で藤本市長が会見したのが新聞に載っていました。ふるさと納税を所沢市はやっていて、返礼品の提供をしていたそうですが、今年度で終了するというふうに発表したということです。その理由はといえば、返礼品の終わりなき競争からひとまずおりたいと。返礼品ではなく、所沢の自然や文化、事業を応援したいという思いに期待したいというふうに語ったとそこには載っていました。

私は、この判断っていうのはすごく勇気があることだなというふうに思いました、その記事を読んだとき。まず、返礼品も含めて取り組んだ。それから、やってみた結果、やはり本来の趣旨に立ち返って、このふるさと納税の制度は続けていくということですから、その道中をしっかりと見きわめたということだというふうに思います。目黒区は、まずふるさと納税の制度をしっかりと確立していないわけですから、私はまずしっかりといろんなアイデアを議論する中で幾つかのプランを出していくことが重要だというふうに思います。

さっき壇上で例えばということですから、それは一つの事例として言っただけであっ

て、恐らくいろんな所管でいろんなアイデアを持った職員の方たちっていうのはいるというふうに思うんです。そういうのを集約しながら、煮詰めていって、ふるさと納税の本来の趣旨に沿った形で目黒区として打ち出していく。その政策に一票を投じてもらう、資金を投入してもらうという考え方をやはり打ち出していくべきじゃないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。